様式1

令和5年度　小林市立須木小学校　自己評価書

4段階評価	4　期待以上　　3　ほぼ期待どおり　　2　やや期待を下回る　　1　改善を要する

学校経営ビジョン	「自信を持ち、夢や希望をもった、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～ 【テーマ やればできる！できるまでやる！パワーアップ須木小】

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	実践事項	具体的な取組	自己評価 取組別	自己評価 総合	結果の考察・分析および改善策等
知育	基礎基本の定着及び主体的に学ぶ児童の育成 【学習成果を実感し、仲間と喜び、教えあえる学びづくり】 ア　基本的学習習慣の徹底 イ　家庭学習の確立 ウ　ICT機器の活用 エ　キャリア教育の充実 オ　読書活動の推進	1について ○　立腰・鉛筆の正しい持ち方の指導 ○　すきるタイム、パワーアップタイムの実施 ○　一人1授業（研究授業）の実施	○　学習の約束に関する指導の重点化（立腰、鉛筆の持ち方）と継続的指導の実施 ○　低学年児童への鉛筆の持ち方グリップの活用 ○　朝の時間のすきるタイムや月1回のパワーアップタイムの時間の活用による学習内容の充実	3.1	3.3	・毎日指導をしているが、定着しない児童がいる。鉛筆の持ち方を上学年になって矯正するのは大変難しいが、根気強く指導していく必要がある。 ・パワーアップタイムで、学習の振り返りを行い、学力の定着を図ってきた。該当学年の学習内容の定着を見届けて、次の学年へ送り出す必要がある。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善に取り組み、1人1研究授業の実践を通して研究を深めた。
		2について ○宅習ノート、タブレットの活用 ○基礎学力定着に向けた家庭との共通理解	○　家庭学習の手引きの配布、見本となる宅習の掲示 ○　自宅にタブレットを持ち帰らせ、課題等を行わせた（上学年） ○　今後、自宅等で課題として使用できるソフト等を更に充実させていく予定である	3.4		・家庭学習の手引きをもとに、年度初めに、家庭学習の取り組み方について指導を行った。宿題の提出率はよく、保護者も関わっている。 ・家庭学習の内容が偏ったものにならないように、担任がアドバイスを送ったり、よい取組ができているノートを紹介することで取組の改善を図ってきた。 ・AIドリルを用いた家庭学習の課題については、長期休業中に実施。通常時については、調べ学習など、必要がある場合に持ち帰らせるようにした。
		3について ○　授業や家庭学習でのタブレットの活用 ○　すきるタイムでの活用 ○　遠隔授業における授業の深化と推進	○　日々の授業、研究授業におけるタブレットの積極的な活用（ほとんどの授業で活用した） ○　すきるタイムにおける積極的なタブレットの活用（プレゼンや原稿作成等） ○　幸ケ丘小学校との外国の遠隔授業実践	3.3		・授業の中で、ワード、パワーポイントを用いて、学習内容をまとめることができるようになってきた。また、タイピングや調べ学習、係活動などにおいて、タブレットを日常的に活用する姿が見られる。 ・幸ケ丘小学校と外国語の遠隔授業の実践を行った。次年度はさらに遠隔授業に取り組み、子どもたちの視野を広げていきたい。 ・朝のすきるタイムで、ICTに関するスキルアップにも取り組んでいる。情報モラルに関する指導を更に系統的に実施していく必要がある。
		4について ○　夢や希望をもった生き方の推進と外部人材の活用 ○　地域との連携でのコミュニケーション能力の育成	○　総合的な学習の時間での福祉体験や保育体験、学校行事での鑑賞教室や遠足、生活科での園小交流や町探検など様々な教育活動においてキャリア教育視点を意識して実施する。 ○　修学旅行において須木をPRする活動に取り組む。	3.4		・生活科、社会科の校外学習や遠足等で、地域で働いている人と自分たちの生活との関わりを見つけることができた。また、総合的な学習の時間や理科、行事等で、外部の講師（専門家）を活用することで、より専門的なことを学ぶことができた。 ・修学旅行での自主研修において、鹿児島の町で出会った方々に、須木の魅力PRする活動を行うことでコミュニケ―ション力の育成を図った。
		5について ○　読書100冊運動の推進 ○　放送による本の紹介の推進 ○　広い視野を持つための新聞記事の活用 ○　図書館協力員との連携による図書室の充実 ○　電子書籍の積極的な活用	○　読書旬間の実施(年1回)※11月（多読賞、読み聞かせ等） ○　図書委員会を中心とした読書推進の取組 ○　家庭学習において、新聞記事をもとに、自分か考えたことを文章で表す学習に取り組んだ。 ○　図書館協力員との連携を密にすることで、授業での活用を図った。 ○　学級文庫としてeライブラリーを積極的に活用するよう呼びかけた。	3.3		・多読賞の紹介や読書ビンゴなどの取組を行いながら読書量の向上に取り組んできたが、読書の質や量には個人差がある。 ・教師や図書委員会による読み聞かせや校内放送によるおすすめの本紹、全校集会で図書委員会が大型絵本の読み聞かせやクイズなど様々な取組を行ってきたことで、児童が本にふれる機会が多くなった。次年度も継続的に実施していき、活字に親しむことのできる児童を育成していきたい。 ・6年生が、月1回程度、宅習ノートに新聞記事をもとに自分が考えたことを文章で表現する活動に取り組んだ。次年度は、子ども新聞の効果的な活用を図りたい。 ・図書館協力員と連携を図り、授業に関連する本を準備したり、時期に合わせた調べ学習コーナーを設定したりすることで、図書館の活用が図られた。 ・eライブラリーについての活用はあまり見られない状況であった。次年度の取組については検討する必要がある。
徳育	ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 【豊かな心づくり】 ア　いじめの早期発見と解消 イ　郷土愛の育成 ウ　一人一人が活躍できる場の設定	1について ○　あのねアンケートとサポート委員会の確実な実施 ○　報連相の徹底と家庭との連携の充実 ○　人権教育学習の推進 ○　教育相談の徹底	○　アンケート調査、教育相談、サポート委員会実施による、未然防止およびいじめの早期発見・早期対応（保護者に対するアンケートも実施） ○　生徒指導、人権に関する職員研修（SSW活用研修等）の充実 ○　「西諸みんなで人権を考える取組」「人権に関する参観授業」の実践	3.3	3.4	・アンケートを毎月実施し、気になる点がある児童については、聞き取りを行い、早期に対応し、サポート委員会において全職員で情報を共有した。 ・SSWと児童や保護者との面談の機会を設定し、困り感の把握とその支援を行った。今後も更なる支援に努めたい。 ・生徒指導、人権に関する職員研修でSSWを講師として招き、関係機関との連携について教えていただいた。今後の対応に生かしていきたい。 ・12月の参観日で、人権に関する参観授業を実施した。性的マイノリティーやSNSの問題、SOSの出し方の授業を行い、保護者からも好評であった。
		2について ○　地域人材を活用し、地域人材の育成を図る ○　自然体験を活用した地域理解 ○　須木の歴史や文化財を通した地域理解 ○　国際交流員を活用した国際理解教育	○　教科や行事における体験活動や地域の人材を活用した学習の実施 ○　自然体験を活用した地域理解 ○　須木の歴史や文化財を通した地域理解 ○　CIRによる国際交流活動の実施（1．2年生）	3.6		・生活科や社会科の学習では、地域の様子、施設や商店などを見て回り、地域の場所や人に親しみをもつことができた。総合的な学習では、柚須農家や社会福祉協議会と連携を図りながら須木の農業や福祉について学習した。また、田尻商店のシャッターに須木の良さをアピールする絵画を作成する活動にも取り組み、須木に対する郷土愛を深めてきた。次年度も地域の方のご協力をいただきながら、須木を愛する心情を育てていきたい。 ・「すきむらんど」に協力をいただき、SUP・カヤック体験を実施することができた。須木の雄大な自然のよさにふれる活動であった。次年度は更に、須木の自然のよさにふれる活動に取り組んでいきたい。また、水辺の調査学習を本庄川の下流の学校と連携しながら実施していきたい。 ・須木の歴史や文化財については、計画を進めてきたが、バスの予約等の問題で、今年度実施できなかった。次年度は実施していきたい。
		3について ○　児童の活躍する場の設定 ○　気づく力、考える力の定着 ○　ボランティア活動の推進	○　児童が活躍する場を集会「みんなで○○する日」や昼の放送等で意図的に設定した ○　単に、行動を求めるのではなく、一つ一つの行動について、意味付けを行いながら指導することで、自分がやるべきことを考えさせるようにする。 ○　朝のボランティア活動を事あるごとに称賛することで活性化を図った	3.4		・「みんなで○○する日」の企画・運営を児童に行わせることで、創造性や表現力などが成長してきた。また、放送委員会が昼の放送の時間に児童参加型の企画を計画し、たくさんの児童が放送で話をする機会を設定した。 ・全校朝会や様々な行事の場で、児童の良かった点は称賛し、できていない部分は、意味付けを行いながら児童にどのような行動をすればよかった考えさせることで、自主的な活動を促してきた。 ・毎朝、校長と一緒に朝のボランティア活動に進んで参加する児童が多く見られた。
体育	健康的な生活を過ごそうとする児童の育成 【健やかなからだづくり】 ア　早寝早起きの規則正しい生活習慣 イ　体育授業の充実 ウ　運動に親しむ児童の育成 エ　保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	1について ○　全員登校100日 ○　家庭との連携	○　学校便りや学級通信、保健便りで、心身の健康管理と欠席をなくすように呼びかけた ○　欠席をした児童には、電話連絡や家庭訪問を行い確認等を行った ○　各学年でこすもす科を中心に生活習慣に関する授業を実施した。	3.4	3.3	・保健だより等を通じて、健康面について保護者にお知らせするようにした。全員登校については、現時点で51日（1月31日時点）である。 ・連続して欠席した児童には、電話連絡や家庭訪問を行い、体調の確認や学校の様子を知らせるなどの対応を行った。 ・こすもす科の授業の中で、養護教諭が生活習慣について指導することで、児童の意識の高まりが見られた。
		2について ・体力向上プランの実践 ・タブレットを活用した授業の実践	○　体力向上プランの作成と授業等での実践 ○　体力テストの実施と結果の分析、活用 ○　タブレットによる活動の様子の動画、静止画撮影、授業への活用	3.2		・授業でのサーキットトレーニング、主運動での運動量の確保を年間を通して実施してきたことで体力向上につながってきている。 ・体力テストの結果は、ほとんどの項目で昨年度よりも向上しているが、個人差が大きい。 ・授業でのタブレットで動きのポイントやお手本の動画などを個人で確認しながら運動に取り組むことができ、技能の向上に役立った。しかしながら教師によって個人差があるため、次年度、さらに活用機会が増えるようにしていきたい。
		3について ・体力向上週間の活用 ・昼休みの外遊び奨励 ・なわとび運動の取り組み	○　タイム走記録会と練習期間の設定 ○　外遊びを奨励し、時間がある時は、教師も遊ぶようにした。 ○　柔軟性、握力を高める取組と、1年間を通じたなわとび運動の実施	3.2		・今年度は、持久走大会の内容を順位を競うものから、5分間で自分の走る距離を伸ばすことを目指すものへ変更した。このことから、すべての児童が自分の目標に向かって主体的に取り組む姿が見られた。次年度も継続して実施したい。 ・昼休みは、教師も外で児童と一緒に遊んでいることもあり、外でサッカーやドッチボールを楽しんでいる児童が多くみられる。 ・朝の会でのストレッチ運動やハンドグリップや握力計の設置、なわとびカードを活用した縄跳び運動に取り組んできたことが、体力向上につながってきている。今後も継続していきたい。
		4について ○　フッ化物洗口の実施と検診結果を活用した、虫歯治療率の向上 ○　情報モラル教育と薬物依存防止教室の実施 ○　安全点検の定期的な実施と危機管理意識の向上	○　検診結果の配付及び受診が進まない児童、家庭への個別相談の実施、全児童に対するフッ化物洗口の実施 ○　薬物乱用防止教室、非行防止教室を実施した。 ○　月1回の安全点検を実施下	3.3		・歯科医師を招いて虫歯のメカニズムや健康への影響、歯みがきの必要性について説明をしていただいた。その後、すぐに治療に行った児童もいた。しかしながら、まだ治療が済んでいない児童が4名いるため、再度呼びかけていくようにする。 ・毎週火曜日の昼休み終了後に、フッ化物洗口を実施した。薬品の使用期限に対する対応も確実に実施した。 ・外部講師を招いて、薬物乱用教室や非行防止教室を実施することができた。非行防止教室の中で、SNSでの被害について具体的に話していただいたことで、児童の注意喚起につながった。今後、学校としても継続的、計画的に指導していく必要がある。 ・月1回の安全点検を全職員で実施し、可能な限り用務員を中心に改善に務めてきた。老朽化のため、学校だけでは改善が困難な部分も多い。11月には、校舎の側面の飾りブロックが落下する事案も発生したため、教育委員会へ連絡し、すべて落としていただいた。
食育	望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 【望ましい食習慣づくり】 ア　食に対する指導の充実、食育の推進 イ　食事バランスの推進 ウ　年間2回の弁当の日と感謝集会の実施	1について ○　給食指導や学級活動における食育活動を通して、食に対する感謝の気持ちの醸成を図るとともに、食事のマナー、箸の持ち方を身に付けさせる	○　全学級で食育の授業を行うことを通して、食事のマナーの向上を図るとともに、栄養バランスについて指導をした ○　給食時間に、食事のマナーや箸の持ち方に関する指導を行った	3.1	3.3	・全学年で食育の授業を実施した。学級でも食育の授業を行ったことで、食事のバランスを意識させることにつながった。 ・箸の正しい持ち方ができていない児童がいる。家庭の協力も得ながら、改善を図っていきたい。 ・学級でも箸の持ち方の指導を行うが、一度身に付いたものを改善するのは、なかなか難しい。粘り強く、家庭の協力も得ながら行っていきたい。
		2について ○　残食0 ○　朝ごはんの推奨と欠食0	○　学級通信や保健だより、学校保健委員会を通じて、保護者に投げかけた ○　苦手な食材を少しでも食べるように指導を行った（無理強いはしなかった）	3.5		・学級では、残食があまりない。給食残食0に対する児童の意識は高くなっている。 ・全員出席の日は残食0を目指したが、欠席がある場合は、人権に配慮して無理に食べさせることはしなかった。
		3について ○　弁当の日の取組 ○　給食感謝集会における感謝の気持ちの育成	○　3つのコースを設定し、自分に合った内容でお弁当の日に参加させた ○　給食感謝集会を実施し、食への感謝の気持ちの醸成を図った	3.4		・今年度は、第1回弁当の日（弁当または食事作り）を夏休み中に実施した。第2回弁当の日は、3月の遠足の日に実施する予定である。 ・給食感謝集会は、1月に実施できた。食に対する感謝の気持ちをもち、食を大切にできる子供たちを育てていきたい。

次年度の方向性についての 校長所見	本校の課題は、一人一人の確実な学力の定着と主体性を持った児童の育成である。これまでICT機器を活用し、発表したり、他校との遠隔授業などで自分の意見を述べたり、堂々と発表することができるようになってきている。しかしながら、内容をしっかり吟味したり、さらに問題を深く調べたりすることへの探求心に課題が見られる。また、個人の学力の定着についても差が見られ、粘り強く取り組もことが課題である。同時に自分らしい生き方を実現するためのキャリア教育や地域愛を醸成するためのふるさと教育を地域と連携しながら進めていくことも必要である。次年度は一人一人の学びに寄り添い、地域と協力しながらやキャリア教育を進めることで課題解決を図りたい。